

〈特集「アスペクト」〉

アイヌ語沙流方言のアスペクト Aspect in the Saru dialect of Ainu

吉川 佳見
Yoshimi Yoshikawa

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究職員 / 東京外国語大学非常勤講師
Researcher, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum / Part-time Lecturer, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は特集補遺「アスペクト」のアンケートの項目に基づき、アイヌ語沙流方言のデータを与えることを目的とする。

Abstract: This article offers Ainu (Saru dialect) data based on the questionnaire for the special issue “Aspect”.

キーワード: アイヌ語、沙流方言、アスペクト

Keywords: Ainu, Saru dialect, aspect

1. はじめに

アイヌ語は近年の急激な母語話者数の減少により、母語話者に対するアンケート調査がほぼ不可能な状態となっている。そこで本稿では、特集補遺「アスペクト」のアンケートの見出しになるべく近い用例を、公刊済みの文献(辞書含む)から抽出することとした。抽出できなかったものは「不明」と記した。アイヌ語は北海道、樺太、千島などの方言に大別され、さらにそれぞれの地域において細分化されるが、本稿で使用したデータは北海道南西部のアイヌ語沙流方言のもの(および沙流方言だと推測されているもの)である。

アイヌ語は現存する日常語の資料がきわめて少ないため、本稿に掲載したものは日常語の用例と散文説話における用例とが混在している。散文説話では日常語と異なる人称接辞の使い方を¹するが、そのほかについて両者の文法的な差異はほとんど無いとされている。散文説話は登場人物のひとり(多くの場合、物語の主人公)の視点から語られるスタイルで、三人称が主語となる用例をあまり収集できないという事情があるため、本稿では、与えられた見出しが三人称主語である場合でも、一人称主語の用例を採用している箇所がある。また、引用した用例は1950~80年代頃に収集・採録されたと考えられるものが大部分であるが、神保・金澤(1986[1898])のように百数十年以上前のものも含まれる。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ たとえば日常語では1人称単数主格人称接辞としてku-を用いるところを、散文説話では(登場人物の自称として)a-または-anという人称接辞を用いる。なお、アイヌ語の人称接辞境界は「=」(半角イコール)記号で示されることがあるが、本稿においては執筆規定に従い、「-」(半角ハイフン)で示す。

引用にあたり、アイヌ語の原典の表記に変更を加えたものがある²。また、日本語訳は原則原典に従ったが、主語などをカッコ書きで補足したものもある。散文説話からの用例については、用例の日本語訳末尾に【説話】と記した。

2. データ

2-1 ~さん（固有名詞）は／あの人は もう来た。

(1) umma tane ek.

馬 今/もう (3-)来る.SG

馬が参りました

(神保・金澤 1986[1898] : 28)

(2) ek a wa.

(3-)来る.SG PAST/PRF/PFV.SG よ

来ました

(神保・金澤 1986[1898] : 82)

アイヌ語は無テンス言語であり、時間関係は時間副詞や文脈によって判断される。アスペクトの意味をあらわす形式や構文はあるが義務的に使用されるものではない。

アイヌ語では動詞の人称標示が義務的である。ゼロ標示の場合、3 人称（または命令文）となる。無テンス言語であるため、「来た」と言う場合は自動詞 ek「来る」をそのままの形で言えば過去を表すことになるが、上記 2 番目の用例のように「ek a wa」という表現もある。a は、出来事が既に完結したことを表す助動詞であるとされている。

2-2 ~さん（固有名詞）は／あの人は もう来ている。

(3) okkaypo soy ta ek wa an ruwe ne.

若者 外 に (3-)来る.SG て (3-)いる.SG こと COP

若い男性が外に来ているのです。【説話】

(アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ C0230UT_35299AP 上田トシさんの民話(7) オタサムの方が交易に行く途中に出会った気の毒な男 (1999))

アイヌ語の多くの方言において、変化の結果継続は「動詞+wa an」という構文で表される。接続助詞 wa は日本語の「～(し)て」にほぼ相当する。an は「ある、いる」を表す存在動詞である。

2-3 ~さん（固有名詞）は／あの人は まだ来っていない。

2-4 ~さん（固有名詞）は／あの人は まだ来ない。

² 表記は北海道ウタリ協会編 (1994) 『アコロ イタク』に準拠した。人称接辞境界の表記については註 1 を参照。

(4) na somo ek

まだ NEG (3-)来る.SG
まだ来ない

(服部編 1964 : 303)

(5) na ek isam

まだ (3-)来る.SG 無い

- ・まだ来ない (服部編 1964 : 303)
- ・まだ来ていない (田村 1996 : 246)

(6) ku-kor opere su pop na arpa e-unuhu hotuyekar wa

1SG.NOM~を持つ 少女 鍋 (3-)煮立つ よ (3-)行く.SG 2SG.POSS-母 (3-)~を呼ぶ て

ek. suye³ kusu ne noyne su atte wa

(3-)来る.SG (3-)~を煮る つもり COP ようだ 鍋 (3-)~をかける て

soyne a p ek isam na.

(3-)外へ出る.SG た のに (3-)来る.SG 無い よ

小さい娘よ、鍋が煮えたので行ってお前の母を呼んで来い。何か煮るためらしく鍋をかけて出たのに来ないから。

(萱野 1996 : 132)

(7) na kina ka hetukpa ka somo ki rapok ne a p

まだ 山菜 も (3-)生える.PL も NEG する あいだ COP た もの

まだ山菜も生えていない時期なので【説話】

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ C0170KM_34710B_34711AP 川上まつ子さんの民話(ア)
伝染病で生き残った十勝の男の話 (1986))

見出し 2-3 と 2-4 について、動詞の否定は、例文(4)のように否定辞 *somo* を動詞の直前に置くか、例文(7)のように動詞の直後に「(ka) *somo ki*」という形式をつづけるのが通常であり、例文(5)(6)のように動詞の直後に動詞 *isam* 「無い」を置く例はあまり見られない。後述の例文(13)には「*iwak isam* (帰って来ない)」という言い方があり、移動動詞にこうした傾向が見られるのかもしれないが、未調査である。

2-5 ~さん (固有名詞) は/あの人は もう (すぐ) 来る。

(8) ek etokus.

(3-)来る.SG ~しそうだ

来ることになった (来そうだ) ⁴

(萱野 1996 : 145)

助動詞 *etokus* は「もうすぐ~しそうになっている」という意味を表すが、散文説話中では *onne etokus* 「(老

³ 「~を煮る」は沙流方言では通常 *suwe* の形をとるが、原文 (カナ書きで「スイエ」) にあわせて *suye* と表記した。

⁴ この日本語訳のカッコ書きは原典通り。

いて) もう死にそうになる」という用例がほとんどである。

2-6 (あ!) ~さんが来た!

- (9) ek na, ek na, sone he an?
(3-)来る.SG よ (3-)来る.SG よ 本当に Q ある.SG
来た来た、あれがそうだろう

(神保・金澤 1986[1898]: 81)

「発見の夕」に相当するような表現は見当たらない。

2-7 昨日~さんが来たよ。

- (10) numan HIKOKI ani Tokyo wa Sapporo un k-ek.
昨日 飛行機 INS 東京 から 札幌 へ 1SG.NOM-来る.SG
昨日飛行機で(私は)東京から札幌に来た。

(本田 2001: 23)

- (11) k-apkas wa k-ek a p un.
1SG.NOM-歩いて 1SG.NOM-来る.SG PAST/PRF/PFV.SG もの よ
(私は)歩いて来たよ。

(本田 2001: 19)

2-8 昨日~さんは来なかったよ。

- (12) numan somo k-ek wa, “a-en-koypak ruwe somo he an?”
昨日 NEG 1SG.NOM-来る.SG て PASS-1SG.OBJ~をとがめる こと NEG Q ある.SG
sekor ku-yaynu korka tanto k-ek ruwe un.
QUOT 1SG.NOM-思うけれど 今日 1SG.NOM-来る.SG こと よ
きのう(私は)来なかったので、「叱られるのではないかな?」と思ったけれど、今日来たのよ。

(田村 1984: 12)

- (13) a-poho ekimne wa...⁵ a p orano
1POSS-息子 (3-)山仕事に行く て PAST/PRF/PFV.SG もの それから
ne eancikari iwak isam
その夜 (3-)山仕事から帰る 無い
息子は山獵に行ってその夜は帰って来なかったのです【説話】

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ C0230UT_35299AP 上田トシさんの民話(ア) オタサム(ア)の男
が交易に行く途中に出会った気の毒な男 (1999))

⁵ wa は言いさし。

2-9 (私は) あのリンゴをもう食べた。

(14) ku-mimaki ani kapu ku-kar wa k-e a wa.
1POSS-歯 INS 皮 1SG.NOM~を剥く て 1SG.NOM~を食べる PAST/PRF/PFV.SG よ
私の歯で皮をむいて (私はリンゴを) 食べたよ

(田村 1988 : 41)

田村(1988)はこの例文について、「りんごの皮をむくために包丁を持って行って渡そうとしたら、こう言った。もう食べてしまったから包丁はいらない、という気持ち (田村 1988 : 41)」と補足している。

2-10 私はあのリンゴをまだ食べていない。 / 私はあのリンゴをまだ食べない。
不明。

2-11 あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています / 食べているところです。

(15) onkami a onkami a kor e kor an.
(3-)拝礼する ITER (3-)拝礼する ITER ながら (3-)~を食べる ながら (3-)いる.SG
(男は) 何度も礼拝をしながら (肉を) 食べていました。【説話】

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ C0150KM_34626ABP 川上まつ子さんの民話(7) エゾ
マツと魔鳥 (1985))

アイヌ語沙流方言などにおいては、動作の結果継続は「動詞+kor an (複数形は kor oka)」という構文で表される。接続助詞 kor は日本語の「~ながら、~つつ」にほぼ相当し、前後の事象の同時進行を表す。an (複数形 oka) は「ある、いる」を表す存在動詞である。

2-12 窓が開いている / 窓が開いていた。

(16) apa makke wa an.
戸 (3-)開く て (3-)いる.SG
戸が開いている

(田村 1996 : 376)

2-13 私は毎朝新聞を読む / 読んでいます。

(17) kani anakne kuneywa pisno ipe etok ta ku-yayriterite wa ora
私.PRN TOP 朝 ごとに 食事 ~の前に 1SG.NOM-運動する て それから
ku-ipe.
1SG.NOM-食事する
私は毎朝食事の前に散歩する
(文字通りには、私は毎朝食事の前に運動して食事する)

(本田 2001 : 31)

(18) kuani anakne tunas ku-hopuni ranke.
私.PRN TOP 早い 1SG.NOM-起きる.SG ITER
私はいつも早く起きます

(神保・金澤 1986[1898] : 82)

(19) nen ne yakka sapaha kunnere kor oka.
誰 COP ても 頭 (3-)黒くする ながら いる.PL
だれでも頭を黒くそめている

(田村 1988 : 55)

例(18)の *ranke* は反復や習慣的に繰り返されることを表す際に用いられる助動詞である。例(19)は「近年の習慣として言っている (田村 1988 : 55)」用例であり、*kor an* (複数形 *kor oka*) は「長い時間経過のうちにくり返される習慣的事実の場合にも用いられる (田村 1988 : 55)」。

2-14 あなたは (あなたの) お母さんに似ている。

(20) onaha neno an.
父 のような (3-)ある.SG
(彼/彼女は) 父親に似ている

(服部編 1964 : 153)

(21) unuhu koheraye.

母 (3-)~に似ている
(彼/彼女は) 母親に似ている

(萱野 1996 : 245)

例(20)の *nenno* は名詞句に後続して格助詞的に働き、「...に似て、(...と)同じように、そのように、それなりに (田村 1996 : 410)」という意味を表す。また、「*nenno an*」で「~に似ている、~に似たような」という意味を表す。例(21)は他動詞 *koheraye* 「~に似ている」を用いた表現である。

2-15 私はその頃毎日学校に通っていた。

(22) teeta anak toan utar turano sinot-as pe ne.
昔 TOP あの 人々 ~と共に 遊ぶ-1PL.NOM.EXCL もの COP
昔はよくあの人達と一緒に遊んだものだ

(本田 2001 : 35)

2-16 私は~に (大きな街の名前など) 行ったことがある。
不明。

2-17 やっとバスは走り出した／走り始めた。

不明。oasi「～を始める」という動詞が助動詞として機能することがあるが、その場合「～しはじめる」という開始の意味は表さず、「～しようとする」あるいは「～することになっている」という意味を表す。中川(1982)は助動詞 oasi は「<ある事象が将来確実に起こると予想される>ことを表わす(中川 1982:243)」形式であると述べている。

2-18 昨日彼女はずっと寝ていた。

(23) taan kur anak siyeye ani ohonno hotke wa an.

この人 TOP 病気 INS 長い間 (3-)寝る て (3-)いる.SG

あの人は長い間寝たきりの生活をしている。⁶

(本田 2001 : 21)

(24) toan kur anakne tan cup etoko un cup orowano siyeye wa

あの人 TOP この月 ~の前 ~にある月 から (3-)病気する て

hotke wa an.

(3-)寝る て (3-)いる.SG

あの人は先月からずっと病気で寝ている。

(本田 2001 : 50)

(25) to epitta nepki kor an.

日 ~じゅう (3-)働く て (3-)いる.SG

(彼は)一日いっぱい(一日じゅう)働いている。⁷

(田村 1996 : 110)

2-19 私はそれをちょっと食べてみた。

(26) e wa inu.

(3-)~を食べる て (3-)聞く

食べてみろ。(命令)⁸

(田村 1988 : 73)

(27) ponno ku-hehewpa wa ku-inkar.

ちょっと 1SG.NOM-覗く て 1SG.NOM-見る

(私は) ちょっと覗いてみる

(服部編 1964 : 301)

⁶ taan は「ここにある/いるこの...、自分のいるすぐ近くの所にある/いる... (田村 1996 : 691)」という意味であるが、ここでは採録者が例示した「あの人は長い間寝たきりの生活をしている」という日本語文に対して、「taan kur ~」と言っている。この例文について本田(2001)は、「「あの人？」と確認してからタアングル taan kur と言っている。この後も toan kur トアングル とタアングル taan kur が混在して出てくる。(本田 2001 : 21)」と註釈を付している。

⁷ この日本語訳のカッコ書きは原典通り。

⁸ 命令表現の場合、人称接辞は三人称と同じくゼロ表示となる。

測を表す接続助詞、humas は「物音がする、音が聞こえる、感じがする」といった意味を表す動詞である。

2-24 (私は) あやうく転ぶところだった。

(33) naanipo e=mom.

あやうく 2SG.NOM=流れる
危うく君は流れるところだ。

(萱野 1996 : 339)

(34) naanipo e=pakoat.

あやうく 2SG.NOM=災難に遭う
危うく君は災難に遭うところだった。

(萱野 1996 : 339)

(35) naani Iskar putu un okaypo a-rayke kusu ne aan pe

あやうく 石狩川 河口 ~にいる 若者 PASS-(3-)殺す.SG 予定 COP だった が
危うく石狩川の河口の若者が殺される所でしたが【説話】

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ C0150KM_34626ABP 川上まつ子さんの民話(ア) エゾマ
ツと魔鳥 (1985))

(36) arwenkamuy naani a-simaketare aan pe

極悪の神 あやうく PASS-敗れる だった が
極悪の神に危うく負かされる所でしたが【説話】

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ C0163KM_34695ABP 川上まつ子さんの民話(ア) イクレ
スイエとミズナラの神 (1987))

例(33)(34)の naanipo、例(35)(36)の naani は、いずれも「今にも～しそうだ/しそうだった」というような意味を表す副詞である。田村すず子(1996)『アイヌ語沙流方言辞典』には naani 等の見出しはないが、例(35)(36)に見られるように沙流方言でも naani が出現する。また、萱野茂(1996)『萱野茂のアイヌ語辞典』には naanipo のほか naanihonko という形が見られ、いずれも「危うく」という訳語が当てられている。このほか沙流方言と文法的語彙的共通点の多い千歳方言では、naani「今にも～しそうだ。もう少しで～するところだった。(中川 1995 : 292)」に加え、naanipakno、naanipakpe というバリエーションがある。naani、naanipakno、naanipakpe は同義である (中川 1995 : 292)。

なお、例(35)(36)に見られる aan は、「...したのだった (なあ)(ということがあとからわかった)(田村 1996: 2)」という意味を表す助動詞であり、発話時点より以前の出来事について、「今思えばこうであった」と新たに気付いたことを述べる際になどに用いられる。aan が無い場合でも「今にも～しそうだった」「もう少しで～するところだった」という意味は表されるが、aan が用いられた場合には過去の出来事について述べていることが明確になると考えられる。

2-25 明日客が来るので、パンを買っておく。

(37) poronno cikuni rura wa ikir kar wa anu
たくさん 木 (3-)を運ぶ て (ものを積んだ)山 (3-)を作る て (3-)を置く
(兄は) たくさんまきを運んでまきの山を作っておきました【説話】

(国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ C0160KM_34688ABP 川上まつ子さんの民話(ア) 沖の国から逃げてきた陸の国の女 (1987))

(38) ku-ye wa k-anu
1SG.NOM~を言う て 1SG.NOM~を置く
私が言っておいた

(田村 1988 : 73)

接続助詞 wa+他動詞 anu 「~を置く」で、wa anu 「~ておく」という表現がある。

2-26 (私は) ~に (街とか市場とか) 行ったとき、この袋を買った。
不明。

2-27 (私は) ~に (街とか市場とか) 行く時/行く前に、この袋を買った。
不明。

2-28 (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。
不明。

略号

1,2,3: 1,2,3 人称, COP: コピュラ, EXCL: 除外, INCL: 包括, INS: 具格, ITER: 反復, NEG: 否定, NOM: 主格, OBJ: 目的格, PASS: 受身, PAST: 過去, PFV: 完結, PL: 複数, POSS: 所有, PRF: 完了(パーフェクト), PRN: 人称代名詞, Q: 疑問, QUOT: 引用, SG: 単数, TOP: 主題

参考文献

- 萱野茂. 1996. 『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂.
神保小虎・金澤庄三郎. 1986[1898]. 『アイヌ語會話字典』(新版) 北海道出版企画センター.
田村すず子. 1984. 『アイヌ語音声資料 1 ーワテケさんとサダモさん』早稲田大学語学教育研究所.
田村すず子. 1988. 「アイヌ語」 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編 『言語学大辞典』 1, pp.6-94, 三省堂.
田村すず子. 1996. 『アイヌ語沙流方言辞典』草風館.
千葉大学編. 2015. 『アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業 第2年次(北海道沙流郡平取町) 調査研究報告書 3/3』千葉大学.
中川裕. 1995. 『アイヌ語千歳方言辞典』草風館.
服部四郎編. 1964. 『アイヌ語方言辞典』岩波書店.
本田優子. 2001. 「川上まつ子アイヌ語文例集」『アイヌ民族博物館研究報告』 7, pp.9-76, アイヌ民族博物館.

「国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ」, <<https://ainugo.nam.go.jp/>>. (2022-12-9 閲覧)

執筆者連絡先 : yoshikawa.yoshimi1@pref.hokkaido.lg.jp

原稿受理 : 2022 年 12 月 9 日